

令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

福祉部高齢介護課

福祉部長 竹部 益世

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
17-1	介護予防・生活支援サービス事業	B	お助け隊などのボランティア団体も高齢化してきているため、令和4年度から社会福祉協議会との協力により、傾聴やごみ出しなどちょっとした困りごとについて、研修を実施してボランティアを育成し、必要な方につなげようとする仕組みとして「ちよいサポ」をスタートした。ボランティア登録者は少しずつ増えているが、利用者にうまくつなげるのが今後の課題である。	拡充推進	「ちよいサポ」を拡充するとともに、引き続き地域にある多様な主体による介護予防を推進し、生活支援体制を構築する。
17-2	老人ホーム入所事業	B	入所措置を要する高齢者に係る相談等について福祉主事を中心に対応するとともに、関係機関と密に情報を共有し、連携を図ることで適切に入所に繋げることができた。また、入所者についても実態把握をすることで退所を含めて臨機応変な対応をすることができた。	現状維持	身寄りのない高齢者の増加や家族関係の希薄化に伴い、入所措置を要するケースは増える一方ではあるが、老人福祉法に則り、引き続き真に措置の必要な高齢者を適切に判断し、入所措置を行っていく。
17-3	長寿訪問等事業	B	平均寿命の延伸から長寿祝金について対象者を見直し、数え88歳（米寿）への祝金を廃止したが、敬老の日に合わせて市長等が高齢者宅を訪問し、長寿を祝福する気持ちを直接伝えることができた。また、プラチナ婚・ダイヤモンド婚・金婚を祝う会については、コロナ禍においても安易に式典を中止とせず、感染対策を講じて開催できた。一方で、式典会場での写真撮影の代わりに記念品として写真クーポン券を贈呈し、近所の写真店で記念撮影ができるよう配慮した。	現状維持	今後も高齢者の敬老・長寿を祝う事業として継続していくが、社会情勢等を踏まえながら、事業の実施方法等について検討を重ねていく。
17-4	高齢者健康祝事業	B	長寿祝金の対象を見直すと同時に、令和4年度から新規事業として実施した。数え88歳の節目において、要介護等認定を受けておらず、健康寿命の延伸に貢献している方を対象に健康祝金を贈呈することで、高齢者の健康増進の励みとなった。	改善推進	高齢者の生きがいや健康促進の観点から今後も継続していくが、社会情勢等も踏まえながら、必要に応じて事業の実施方法等の見直しを検討していく。
課等長	1次評価（令和4年度の総括評価）				
B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な活動制限を受ける中でも、令和4年度の目標は達成することができた。特に平均寿命の延伸に伴う長寿祝金事業の見直しや健康増進強化のための健康祝事業の新規立ち上げ等を行うことで、適正なスクラップ・アンド・ビルドを実施できた。 また、介護分野での人材不足、特にヘルパーの不足が進む中で、生活支援部分を補完するべく社協と協力して「ちよいサポ」をスタートした。今後も拡充を図っていきたい。				
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	高齢者人口の増加、平均寿命の延伸など、高齢者を取り巻く状況は今後も大きく変化していくため、高齢者健康祝事業のように社会情勢等に注視しつつ、その時宜にかなう施策をすすめていく必要がある。 令和5年度は「半田市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定年度となるため、幅広い意見を計画に反映させるため、半田市介護保険運営協議会において、各関係機関と連携・協力し計画策定をすすめていくこと。 また、長引くコロナ禍の影響により、外出や社会活動の自粛が解除された後でも、感染による重症化リスクが高い高齢者は、自ら活動自粛することが予測されるため、身体・精神機能が低下しないよう状況に応じた取り組みを施すよう指示した。				